

<これまでの状況>

■トップアスリートにおける強化・研究活動拠点の在り方について〔有識者会議 最終報告〔抜粋〕(文部科学省／平成27年1月)〕

【課題点】

- 冬季競技等については、それぞれ競技会場の自然環境への適応が求められるという特性があるため、日本国内での強化拠点の設置になじまないと思われる競技種別もあるという課題や、単独競技のみで拠点が形成されているため、競技横断的なコミュニケーションや連携等が困難であるとともに、科学的な研究活動の機能等が不足しているという課題がある。また、施設設置者と競技団体との連携不足や、高地トレーニングについては多くの競技の強化活動に取り入れられるよう機能強化を図る必要があるなど、多くの課題がある。

【今後の方向性】

- 多くの課題を解決するためには、諸外国の状況等も参考にしながら、設置形態に応じた役割や必要となる機能、具体的な連携方策など、様々な観点から更に効果的・効率的な拠点の在り方について引き続き検討していく必要がある。

<検討状況報告>

国内調査から得られた主な論点

- タレント発掘・ジュニア育成への活用
- 「理念・ビジョン・ミッション」の明示
- 「強み」をより生かす運営
- 拠点の高度化に向けたネットワークの在り方
- ハード、ソフト・ヒューマン機能の連携
- 高地トレーニングの活用・促進の在り方
- 国内拠点を活用できない時期のトレーニング環境の確保

国外調査から得られた主な特徴

- 競技団体による拠点選定基準
- 一貫性と統一性の担保～強化拠点としての基準や役割・責任の明確化～
- パートナーシップ～資源供給及び活用の効率化～
- アスリート育成～アスリートのデュアルキャリア支援～
- 人材育成～スタッフ育成～
- 国際競技大会・合宿の誘致・開催を通じた相乗効果の創出
- オリンピック・パラリンピック競技の共同利用
- エリートスポーツの拠点と地域・コミュニティへの還元
- 効果的な空間のデザイン
- 持続的な財源確保に向けた工夫

我が国のトップアスリートにおける強化活動拠点の全体像(イメージ)

屋内系競技拠点(中核拠点)

- オリンピック競技とパラリンピック競技の共同利用化
- 「ハイパフォーマンスセンター」の構築
- NTCの拡充
- 「ハイパフォーマンススポーツエリア」の構築等

集約が可能な競技拠点

- ヒューマン機能の安定性や、革新性を生み出す文化を醸成するマネジメント・システムを構築することが可能
- 単なる拠点施設の複合体ではなく、競技を中継するハブ機能等を存在させることが重要
- 屋外系競技のみならず、従来の拠点設置の考え方に留まることなく、あらゆる可能性の中で集約化を検討等

集約が困難な競技拠点

- 既存施設の高機能化にあたっては、単にハード機能を独立して捉えるのではなく、スポーツ医・科学、情報機能や、ソフト・ヒューマン機能の強化をセットで考えることが重要
- センター・オブ・エクセレンスとして、人と情報が継続的に集まるシステムを構築することが重要等

海外拠点

- 国際競技大会直前におけるハイパフォーマンスサポートを実現するため、複数競技が利用可能な海外拠点を構築
- 複数競技が利用可能な高レベルのトレーニングの実現、夏季競技と冬季競技の分散化、高地トレーニングについても設置要件として検討
- 国際連携体制をより積極的に構築するなど戦略的な取り組みの検討が必要等

高地トレーニング拠点

- 高地トレーニングの有効性や導入方法等に関わる研究知見を現場に繋いでトレーニング方法等の選択肢を増やすためのコミュニケーションが重要
- 競技横断的に利用可能なガイドラインの策定
- 中核拠点や大学等との連携
- サポート体制の充実等

- ◆ 各拠点を「一体のネットワーク」として捉えた新たな「NTCシステム」の上でデザインすることが重要
- ◆ NTCの拡充計画が進められている状況などを踏まえると、新たなハード整備については中長期的な検討が必要